



栃木市

教育委員会だより



発行：栃木市教育委員会
住所：栃木市万町9-25
電話：0282-21-2467
FAX：0282-21-2689
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp



皆川中学校 体育祭

『誰一人 取り残さない教育の推進』

『第3期栃木市教育計画』

基本理念

希望に向かい 伸び伸びと個性を発揮し
互いに認め合いながら より良い社会を築いていく
‘とちぎ愛’ に満ちた人を育てます



栃木市教育ニュース

教育委員会では、生涯学習を基盤とした社会の構築を目指して、本市ならではの教育を推進しています。今号の『栃木市教育ニュース』では、「学校行事」について市民の皆様にお知らせします。

小野寺小学校 運動会



大平南小学校4年生 宿泊学習



藤岡中学校2年生 宿泊学習



合戦場小学校6年生 修学旅行



西方中学校3年生 修学旅行



梅雨入り前の青空と新緑が美しい5月末日、市内某小学校の春季大運動会を参観しました。地域や保護者の方々の子ども達の演技を声援する姿、教職員の方々のキビキビとした動き、PTAの方々のご支援、そして何よりも演技しているときの子ども達の最高の笑顔や声を枯らして声援している姿に接し、感動を抑えきれない気持ちで全演技を見ることができました。校長先生の開会式や閉会式での喜びに溢れた力強い挨拶を拝聴し、ポストコロナを心底実感しました。

コロナ禍によって一層加速したAI技術の進歩により、人間としての「幸せ」や「豊かさ」の価値観が大きく変わりました。無駄を経験するからこそ合理性が生まれます。一見無駄と思われる中にも、見えない価値が多くあることに気付かされます。手間暇かけることは、子どもを育てる上でとても大切なことです。コロナ禍の中、学校教育にも縮小・簡素化・中止などの波が襲い、最初にターゲットになったのが運動会・体育祭・修学旅行等々の学校行事でした。しかし、これまで、学校行事を実施することを通して、団結力、コミュニケーション能力、互助精神など生き抜くために必要な人間性の育成が図られたことは誰もが認める事実です。学校行事は人の心を確実に育てます。学びの本来の姿とは、様々な教育活動を通して、合意・納得・共感しながら、共学・共伸することです。一方では、SNSやチャットGPTなどの普及に驚く一方、子どもの文章力・思考力の低下が懸念されます。人工知能にはない共感力や誤答力や忘却力から、思いを寄せる心が育ってきます。今後は、テクノロジーから回答を絶対視するのではなく、素朴な疑問やそれぞれの価値観で考えることのできる“人間らしさ”にしっかりと目を向けた教育が必要になってくるのではないのでしょうか。

教育長職務代理者 後藤 正人



教育委員の活動日誌

教育委員は、本市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号の『教育委員の活動日誌』では、その一部を紹介するとともに、新任委員の紹介をします。

定例教育委員会



毎月開催している教育委員会の会議です。本市の教育に関する様々な事務について、事務局職員からの説明を聞いたうえで、7名の委員が活発に協議を重ね、実施の決定等審議を行っています。

新任委員紹介

5月19日付で教育委員を務めさせて頂くことになりました大塚裕子と申します。

栃木市の子供達や保護者の方が日々の暮らしの中で笑顔溢れる時間が増えるよう未熟な私ですが精一杯頑張っていきたいと思っております。

コロナ禍で様々なことが制限されてきたからこそ、これから沢山の喜びを皆さんと分かち合えていけたらと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

教育委員 大塚 裕子



教育委員からのメッセージ

「教育委員の活動日誌」では、教育委員からのメッセージを掲載しています。今回のテーマは「ポストコロナ時代だからこそ！」です。

「要するに生きることが愛であり、愛であることが生きることであればいいのです。」(山本有三『津村教授』) このぶっきらぼうな言葉を今風に言い換えれば、他人と接するには愛が必要であり、しかしあなたはあなた自身を最も愛すべきであり、だから自殺してはいけません。
教育委員 林 慶仁

あるドキュメント映画で観たスーツ姿の教育委員会の面々。辛くなるほど真っ黒だった。転じて、過日日光で行われたG7会議。各国首脳の女性が着こなす色とりどりのスーツから和やかで優しい雰囲気が伝わってきた。少しでも明るい色があるとホッとする。さあ今、いつもよりちょっと派手な色の服を着て、栃木の街に出ようじゃないか。(笑) 教育委員 福島 鉄典

ポストコロナ時代になり、人と人との直接的なつながり、喜びを共有することの重要性を再認識しています。私の職業は、ピアノ講師兼リトミック講師ですが、今まさにコミュニケーションの大切さを実感しています。コロナ禍で様々なことが制限されてきたからこそ、これから沢山の喜びを皆さんと分かち合えていけたらと思っております。

教育委員 大塚 裕子

誰もが経験したことのないコロナ禍での生活。いろいろ制限された中で私たちはそれなりに努力し、注意し、協力して来ました。そしてやっと落ち着き今はポストコロナの時代。毎朝散歩の途中で出会う登校班の子どもたちの笑顔と楽しそうな笑い声に思わず笑みがこぼれてしまう私です。

教育委員 西脇 はるみ



栃木市 マスコットキャラクター
とち介



栃木市版 運動部活動の地域移行

モデル事業が9月にスタート!

「休日の部活動の運営主体を学校から地域へ段階的に移行する」という国の方針のもと、本市ではその第一歩として、部活動が新チーム体制となる9月から、対象の中学校においてモデル事業をスタートします。休日の部活動は、地域のスポーツクラブが運営主体となる「地域クラブ活動」になり、スポーツクラブに所属する指導者が顧問に代わって指導に当たります。モデル事業で得られた成果と課題を検討会議において整理し、次年度の拡充につなげていきます。

◎「対象の中学校&スポーツクラブ」は、以下のとおり
(カッコ内は、対象の部活動)

吹上中学校&とちぎスマイルコミュニティ
(女子ハンドボール部・女子卓球部)
大平中学校&栃木スポーツネット
(陸上競技部・女子バドミントン部)

部活動と言えば、“汗と涙の結晶”青春の1ページ。人生に大きな影響を与えるといっても過言ではないはず。そんな部活動のあり方が、今大きく変わろうとしています。学校の働き方改革と同時に、やりたい部活が学校にない。部員が少なく、思ったように練習ができない。試合に出るときは複数校の生徒で集まってチームを作るなど、部活動をめぐる問題は複雑で簡単ではなく、課題は山積み。少子化の影響で、やりたい部活動が自由に選択できない現状を考えると、今の時代に合わせた、多様な方法で生き抜いていくことが必要なのかなど。長い時間をかけて、これまで築き上げてきた部活動のあり方が変わるのだから、メリットよりもデメリットに目が向きがちで、本当に大丈夫なの?と心配になります。この過渡期を乗り越えて、生徒たちが心身ともに健やかにスポーツに親しむことができると期待します。そして、そこで関わる全ての人たちとの経験が、かけがえない青春の1ページになるだろうから、今しかない今を大切に考えたいです。 教育委員 舘野 知美

教育長通信 母恋し〜俳句ブームに寄せ〜

初詣母に似た人楽しげに

教員時代からの旧知の先輩から毎年届く、絵手紙調の年賀状。長年お世話をされていたお母様を詠まれた句と、画面いっぱい描かれた親しみのある、しかもプロ級の絵を楽しみに待つのが私の元旦の恒例となっています。それらの葉書たちは、先輩の名前をとって「KAZUE Gallery」と名付けられ、我が家の一角でほっこりとした輝きを放っています。

先の句は、認知症を患われていたであろうお母様を見送られた少し後にいただいた葉書にあったもの。折しも、自身も実母を見送って間もない頃であり、よく亡き母と連れだって出かけた自宅近くのスーパーで、ふと気付くと母に似たご老人を目で追っている自分と重なり、何とも言えぬ切ない共感を覚えたものでした。同時に、「孝行をしたいときには…」の言葉の意味を、身体の芯でずしんと感じていた頃でもありました。20点を超える「KAZUE Gallery」の中から、もう2点ご紹介します。どちらの句からもお母様への深い愛と慈しみが滲み出て、心の奥底に沁み入ります。

稚児となる母の手ぬくし散歩道 毘布巻のやわらかければ母恋し

無粋ゆえ、自身に俳句を詠む習慣はありませんが、新聞や雑誌に投句された作品を味わったり、最近頼りにテレビ等で放送されている俳句番組を楽しんだりしています。中でも特に興味深いのは、俳人によるコメントや手直しです。語の順序をちょっと工夫するだけで、また、助詞を一つ置き換えるだけで、作品の包含する意味や放つインパクトがこれほどまでに違ってくるのかと、日本語ならではの語彙の豊かさや趣の深さを再認識させられ、唖ってしまうことしばしばです。それだけで、俳句の世界に一寸だけ足を踏み入れたような気分になっている自分がいます。

今や超スマート社会に向かい、世の中は効率性や利便性の追求に余念がありません。コミュニケーションの手段もすっかりデジタル化し、時空を超えて瞬時に不特定多数の他者と繋がったり、意思疎通することが可能になりました。このこと自体は実に素晴らしいことと思います。ただ一方で、日本人が古来大切にしてきた「行間を読み取る」ことや「相手の気持ちを慮る」といった美德も失いたくないものです。今こそ、俳句をはじめとした日本語の美しさや奥深さを味わえる伝統芸術を通して、ITやAIには無い人間ならではの感性を磨きたいものだと、強く感じる今日この頃です。

教育長 青木 千津子



【編集後記】 “教育委員会だより 絆” は市民の皆様にも、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25
電話：0282-21-2467 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp